

全小社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都杉並区高井戸西 2-2-1
・発行人 久保田 福美
・編集人 山田

石川大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都杉並区立高井戸小学校校長

久保田 福美



全国小学校社会科研究協議会（全小社研）第九十回理事会が、六月十日に開催されました。ご多用の中、大勢の顧問の先生方や全国の理事の皆様方にはご出席をいただき、ありがとうございました。

理事会の冒頭では、熊谷稔副会長（岩手）から、大震災及びその後の状況について具体的なお話がありました。改めて、被災地の復興支援や社会科の役割について思いを新たにしました。理事会では、新しい役員体制も決まり、各事業計画や予算も

承認され、今年度の全小社研の活動がスタートしました。

この日、理事会終了後の講演会では、文部科学省教科調査官 澤井陽介先生から、「社会科教育の動向」について、貴重なお話をいただきました。四つの観点による評価や指導の工夫改善と言語活動の関連等、ご教示いただいたことを、これからの実践に生かしていきたいと思えます。折しも、新学習指導要領完全実施の年に、第四十九回全小社研石川大会が、十月二十七日・二十八日の両日にわたって開催されますことは、誠に意義深いことでもあります。

今回の大会主題は、「自ら社会に参画する力の基礎を養う社会科学習―自分発、社会経由、自分行―」です。一つ目は、広い

視野から地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めるとともに、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、それらを活用して社会的な見方や考え方を養う社会科学習。二つ目は、学んだことを生かして、自分の考え方を広げたり深めたりするとともに、個を確立し公意識をもって自分の生活や学びを見直す社会科学習が提案されます。

その中で、①子どもの問題意識を高め、確かな事実認識から社会認識を深めることができる教材、②子どもが学習集団や教師とかかわり合いながら自らの見方や考え方を確かなものにしていく学習活動、③子どもが学習したことを自分の生活や学びに生かす指導と評価等、新学習指導要領の趣旨をふまえた貴重な実践提案がなされます。石川県発の社会科教育に心から期待しています。

石川大会実行委員長の大西賢一先生を中心とした石川県小学校社会科教育研究会の皆様に敬意を表するとともに、全国から多くの方々がこの大会に参集され、その成果を各地域で生かしていくことを願っています。

学習指導要領全面实施と社会科教育

全国小学校社会科研究協議会副会長
岩手県盛岡市立北厨川小学校校長

熊谷 稔



今年度も、既に一学期を終えました。各学校では、新しい年間指導計画に基づいた具体的な実践と再検討が進められていることと思います。

新学習指導要領は、①教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。等の基本方針のもとで改訂されました。「知識・技能の習得・活用と探究活動」「学習の基盤となる言語に関する能力の育成」が重視され、他教科とともに社会科の授業時数が増やされました。

改めて社会科の目標を見てみますと、『社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史

に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。』とあります。これは、教育基本法が第一条「教育の目的」で掲げる『人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成』に他なりません。

私は、この社会科の担う崇高な使命を全小社研の全ての会員と今一度確認し合い、社会科教師としての誇り高い矜持をもって、日々子どもたちの指導にあたって欲しいと改めて思います。

私も東北社研は、一月に『自ら社会にかかわる子どもを育てる社会科授業の展開く学習内容の構造化と言語活動の構成を通して』の主題の下、岩手県盛岡市で第五十一回研究会を開催します。新学習指導要領の全面实施の年に相応しい実践を提供し、意義深い研究大会となるよう情熱を注いでいます。

第四十九回全国小学校社会科研究協議会石川大会

大会主題『自ら社会に参画する力の基礎を養う社会科学習』

— 自分発、社会経由、自分行 —

石川大会実行委員長 大西賢一



先の東日本大震で被災された東北四県の先生方の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、近年は、知識基盤社会化、少子高齢化、高度情報化、グローバル化が進み、社会保障や環境の問題、非正規雇用者の増大など社会的・経済的格差など多くの問題が生じ、大変先行き不透明な社会状況にあります。また折しも本年度は新学習指導要領の全面実施の節目の年にもあたります。

このような時代だからこそ、先の課題の解決策や対応の仕方等を考える教育が求められます。このような内容について学習する教科は、社会科が中心となるべきであり、同時に担うべき使

命であると考えます。

また、小学校の社会科の目標には「社会生活について理解を図り、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」と表記されています。

そこで、本大会では、これからの時代に生きる子どもたちに対して「社会に主体的にかかわっていく市民」を育てる教育が重要と考えます。つまり、小学校社会科の究極の目標である「公民的資質の基礎を養う」を真正面から取り組むことが大切であると考えました。

とりわけ、この公民的な資質の基礎の重要な要素その一つが『よりよい社会に参画する力の基礎』であります。

石川県小学校社会科教育研究会研究部会では、全小社石川大会を迎えるにあたり、「自ら社会に参画する力の基礎を養う社会

科学習」を主題に設定しました。

一 大会主題・副題について

私達がめざす「社会に参画する力の基礎を養う社会科学習」とは、広い視野から地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることでもあります。そして基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、活用して社会的な見方や考え方を養うことであります。さらに、学んだことを生かして自らの考えを広げたり深めたりするとともに、個を確立し公意識をもって自分の生活を見直すことでもあります。

また、よりよい社会に参画するためには、かかわり合いを大切にしながら、正確に事実を認識（社会を見る）し、社会認識を深め（社会がわかる）、学習したことをもとに自らの生き方を問い直す（社会にかかわろうとする）ことであると考えています。

そこで、これらの学習過程や社会に対する興味や関心を高めることが重要と考え、「自分発、社会経由、自分行」に整理し、副題として設定しました。

二 研究内容について

(一) 子どもの問題意識を高め、

確かな事実認識から社会認識を深める教材

① 子どもが身近に感じる教材の開発

② 子どももの思考や理解の筋道を明確にする学習内容の明確化

(二) 子どもが学習集団や教師とかわりながら、自らの見方や考え方を確かなものにしていく学習活動

① かかわりをもちながら追究することができる単元構成の工夫

② 知識や技能を習得し、それらを活用しながら自らの生き方を探求する学習活動の工夫

(三) 子どもが学習したことを自分の生活や学びに活かす指導と評価

① 社会を「見る」「わかる」ことを大切にしたい指導と評価の工夫

② 社会に「かかわろう」とする姿を育てる指導と評価の工夫

第四十九回全小社「石川大会」は、平成二十三年十月二十七日（木）二十八日（金）に開催いたします。

全国の皆様、是非とも石川の地に多数お越しいただき、石川発の社会科授業をご覧いただきたいと思えます。また同時に皆様の実践をもとに社会科教育を語り合いましょ。

第一会場

金沢市立弥生小学校

校長 細川 章

一 学校紹介

本校は郷土が生んだ文豪室生犀星にゆかりのある犀川が近くに流れ、加賀百万石の城下町金沢の歴史や伝統を今に伝える旧北陸道や旧鶴来街道があり、古くもあり新しくもある落ち着いた街並みの中にあります。

石川師範学校男子附属小学校を前身とし、弥生小学校としては今年度創立六十三周年を迎える歴史ある伝統校です。

二 研究主題と副題

① 主題

かかわり合い、自己の学びを深める子

② 副題

「ことば」の力を大切にした社会的な思考力の育成

三 研究の概要

① 「自分ごと」としてとらえる

ことのできる教材の開発
・ねらいを明確にした知識の構造化を図る。「知識の構造図」を作成し、何を調べさせ、何を考えさせるのか、活動の意図を明確にしていく。

第二会場

金沢市立小立野小学校

校長 大畑 勇一

- ・児童自らが問いかけながら学んだり考えたりしたくなる教材を開発し、子どもの問いをしつかりと確立させる。
- ②豊かな「集団思考」を促す学習活動の工夫

子どもを学びの主体にするために、子どもの思考の流れを大切にしながら問題解決的な単元構成を工夫する。

「集団思考」の場を意図的に設定し、子どもの思考を焦点化する発問や資料の提示を工夫する。また、児童の発言において「根拠は〜」「わけは〜」と根拠や筋道を自分の言葉で表現させたり、板書を構造化したりすることにより児童の考えを整理したり、論点を明確にしたりして集団思考を促していきたい。

③自己の学びの変容を自覚できる指導と評価の工夫

学習を通して自己の学びがどのように変容したのか学びの深まりへの気づきを促すために、毎時の「ふり返り」など「書く」ことを大切にしている。学びのつながりを大切にしながら、学習履歴を掲示するだけでなく、意図的に学んだ知識や技能を活用する場を設定する。

一 学校紹介

本校は、犀川と浅野川に挟まれた小立野台地に位置し、二十一年級、児童数五百二十三名の学校です。天徳院や宝円寺など前田家ゆかりの神社・仏閣が散在する歴史の香り豊かな環境の中にあります。また、県立歴史博物館などの教育施設に恵まれた文教地区でもあります。現在、校舎改築中であり、中高学年棟がこの七月に完成し、教育活動の充実を目指し新たな一歩を踏み出しました。

二 研究主題・副題

自ら調べ、考え、判断し、確かな思いを築く子どもを育てる〜人・もの・こととのかかわり合いを大切にしていこう

三 研究の内容

本校では、主体的に問題解決型学習に取り組む、学ぶ力をつけることで、学びを生活に生かそうとする「確かな思い」を子ども達に築かせることを目指しています。

(一)人・もの・こととのかかわ

り合いを大切にされた教材の工夫

地域の社会的事象や学習対象に着目し、単元のねらいを達成し「確かな思い」を築くことができる教材を工夫する。

(二)学ぶ力をつけ、確かな思いを築くための単元構成

問題解決型の単元構成を基盤とし、具体的な事実認識をもとに抽象的な概念形成を図ろうとしている。また、学ぶ力を定着させるために本校独自の評価問題を作成し、授業改善に努めている。

(三)自己の変容を自覚できる評価活動の工夫

授業の終盤や単元末に学びを振り返り、自分を見つめ直す場を設けることで、自分の思いの変容に着目させる。

(四)子どもを考えを引き出し、組み立てる授業づくりの工夫

本時レベルでの具体的な手立て(学習問題・板書・発問・資料・話し合い)のあり方を工夫し、指導者個々の工夫を全体で共有し、授業における「小立野スタイル」の確立を目指している。

第三会場

金沢市立諸江町小学校

校長 小平 豊彦

一、学校紹介

本校は、JR金沢駅の近くにあり、浅野川をはさんで東側は田、西側は主に住宅地で大通り沿いには店舗も並び、様々な風情が楽しめる地域です。

二、研究主題

①研究主題 「自らを活かして共に生きる」

②研究副題

「人と関わり自分で課題を解決する力の育成」

三、研究の概要

①子どもの問題意識を高め、確かな事実認識から社会認識を深めることができる教材の開発
・子どもたちが興味・関心をもって学ぶために自分の生活と関連のある身近な教材を取り上げる。
・様々な知識を事実認識と社会認識に分けて階層化し、構造図として表す。また、指導案の単元計画にも位置づけ、社会認識を獲得していく道筋をはっきりさせる。

かわり合いながら、自らの見方や考え方を確かなものにしていく学習活動
・一次：子どもたちの学習意欲が高まる社会的事象を提示して単元を通じた課題を作る。

・二次：事実認識をする。更に疑問を整理したり新事実を教師が提示したりして社会認識をする課題を作り、解決する。
・三次：これまでの学習を生かして、多面的に考えたり、公正に判断したりして、よりよい社会を考え表現する。具体的な形態として実践型、提案型、意思決定型、合意形成型、価値判断型、他事例型等がある。

・子どもたちどうしのかかわり合いを大切に、教師の出場や効果的な板書を工夫する。

③子どもが学習したことを自分の生活や学びに生かす指導と評価

・毎時間、自分の変容を自覚させるためにふり返りを書く時間を確保する。
・三次で、思考・判断したことを表現する場を設定し、「自分行」の姿を明確にする。
当日は多くの先生方のご来校をお待ちしています。

(二)人・もの・こととのかかわ

全小社研事務局だより

全小社研事務局長 佐藤 繁則



平成二十三年六月十日(金)日
本出版記念クラブ会館において、
(十月二十七、二十八日)の概要

第九十回理事会が開催されました。久保田福美会長の挨拶の後、議事に入り、平成二十二年度の事業・決算が承認されました。引き続き、平成二十三年度役員が選出・紹介されました。

- 会長 久保田福美(東京・杉並区立高井戸小学校)
副会長 石橋 昌雄(東京・板橋区立板橋第十小学校)
熊谷 稔(岩手・盛岡市立北厨川小学校)
南 哲朗(神奈川・横浜市立稲荷台小学校)
大西 賢一(石川・金沢市立鞍月小学校)
山内 雅夫(名古屋・名古屋市立川原小学校)
多田 和正(大阪・大阪市立弘治小学校)
岡本 利明(岡山・岡山市立福浜小学校)
川崎三雄(高知・高知市立第四小学校)
堀川 重昭(熊本・熊本市立壺川小学校)
藤馬 享(神奈川・横浜市立藤が丘小学校)
佐藤 明彦(東京・文京区立駒本小学校)
常任理事 神山 安弘(東京・江東区立明治小学校)
理事 各地区団体組織表による
- 事務局次長 佐藤 繁則(東京・江戸川区立清新第三小学校)
事務局次長 松田 秀男(東京・調布市立柏野小学校)
宇田川嘉一(東京・葛飾区立上小松小学校)
西脇 裕高(東京・清瀬市立清瀬第七小学校)
重隆(東京・新宿区立東戸山小学校)
山田 裕(東京・狛江市立緑野小学校)
- 調査研究部長 國分
会報部長 山田

説明と第五十回高知大会(平成二十四年十一月八、九日)の準備状況の報告がありました。

研究論文の募集

全小社研では、毎年研究主題を設定し、研究論文を募集してその成果を冊子にまとめ全国に紹介しております。今年度も文部科学省教科調査官 澤井 陽介先生をはじめ多くの先生方に論文審査をお願いし、優れた論文を研究集録第四十七集として刊行する予定です。今年度は、左記の研究主題で研究論文の募集を行います。

一 研究主題

「新学習指導要領の具現化をめざす社会科指導の工夫」

二 研究実践例

- ① 「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指したもの
- ② 一人一人の児童に生きる力としての問題解決能力の育成を目指したもの
- ③ 体験的な活動を適切に組み入れ、考えに広まりや深まりをもたせようとしたもの
- ④ 学習の複線化等、児童の多様な願いに応えようとするもの
- ⑤ ティーム・ティーチング等

の多様な指導方法を効果的に導入したもの

⑥ 学んだことを実社会や実生活等に活用し、社会参画を視野に入れたもの

⑦ 基礎・基本の確実な習得と応用、発展を図ったもの

三 応募要項

- ① 論文枚数 A4縦置き 6枚
- ② 締め切り 平成二十四年 二月一日(水) 必着
- ③ 応募方法 官製ハガキに次の事項を記入の上、平成二十三年十二月二十二日(木)までに事務局長にお申し込み(応募登録)ください。

a 研究主題 b 実践学年

c 実践単元 d 応募者氏名

e 勤務校

f 勤務校所在地、郵便番号

g 勤務校電話、FAX

④ 応募資格

正会員である団体(都道府県社研等)の推薦または個人会員

⑤ 発表

審査結果は二月末までに本人宛て連絡し、入選・佳作は研究集録に掲載します。

⑥ 問い合わせ先・応募先

〒一三四一〇〇八七

東京都江戸川区清新町一―一三八

江戸川区立清新第三小学校長

佐藤 繁則

Tel 〇三―三八七八―一三六二一

Fax 〇三―三八七八―一三六二四

個人会員募集

全小社研では、中央研究団体として、小学校社会科発展のため、全国各地の研究団体(正会員)と個人会員(準会員)が連携して研究活動を続け、その成果を積み上げてきました。今年度も個人会員への加入にご協力ください。

個人会員の性格・資格

個人会員は、準会員として会費を負担することにより、研究論文への応募資格を得るとともに、全小社研の研究成果の刊行物(研究集録・会報・資料)を送付いたします。

会費 年額千五百円

会費の納入方法

郵便振替または現金書留でお願いします。郵便振替用紙が必要な方は事務局にご請求ください。

郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六一二八二五五七

全国小学校社会科研究協議会